物語文の読解

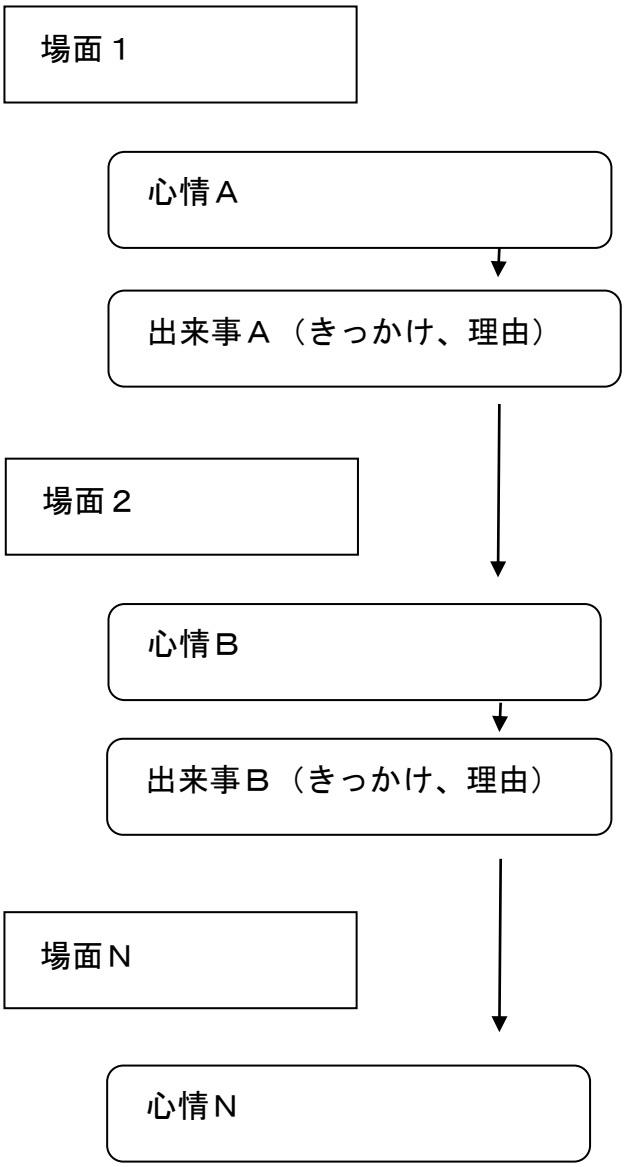
１．物語文とは：
虚構の世界、作られた世界。
なので、すべての表現に、筆者が[意味]を持たせている。

現実の世界：
「さわやかな一陣の風が吹いた」
野球に勝った後に吹こうが、負けた後に吹こうが風は風だ。

しかし、
虚構の世界で、作者が「さわやかな一陣の風が吹いた」と書けば、
それがたとえ試合に負けた後に吹いたとしても
「精一杯努力して負けた」という「すがすがしい気持ち」を表現したいために
吹かした風だ。

虚構の世界では、周りの景色すら、表現されることで何らかの意味をもつ。

２．物語文の構造



はじめは出来事Ａのため、心情Ｂだったが、
出来事Ｂが起こったため、心情Ｎに変わった。

この心情変化に主題が隠されていることが多い。

なお、心情Ａ部分は、本文前のリードや登場人物の最初に登場するとき、簡単に紹介されることが多い。

３．心情記述問題に対する答え方

例文：
ツヨシ：誕生日には（今は亡き）母がいつもケーキを焼いて祝ってくれたっけ・・・

おば：
「今年はおばさんにまかせて！　お母さん以上のごちそうを作ってあげるからね」

ツヨシ：
母さん以上・・以上ってなんだよ。

ツヨシはこわばった表情で、おばを遠ざけるように後ずさりした。

設問：
傍線部のツヨシの気持ちを説明しなさい。

解答例：

物語文の読解で、気持ちを問われたとき、心情語だけを答えても正解にはならない。
なぜなら、国語は、読み手がどう読み取ったかを、出題者に説明しなければならないから科目だから。
なので、心情プラスその理由（抽象化）を答える必要がある。

ステップ１：
傍線部（動作、表情、口調、せりふ、しぐさ、行動などの身体表現）を心情語に置き換える。
こわばった表情　→　しずかな怒りの気持ち
遠ざけるように後ずさり　→　拒否、反発する気持ち

ステップ２：
傍線部を引き起こした直接の原因となる「できごと」を本文から決定する。
お母さん以上のごちそうを作ってあげるからね、というおばの言葉を聞いたこと。

ステップ３：
ステップ１とステップ２を意味づける（抽象化する）。
お母さん以上というおばの無神経な言葉と態度

悪気はないのだが、お母さんを絶対だと思っているツヨシに対して、お母さん以上という言葉はツヨシに対する配慮が欠けていた。
それを一言で「無神経」と抽象化して答える。（じいが追加）

ステップ４：文章を作って解答
亡き母が祝ってくれた自分の誕生日に、母以上のごちそうを作るというおばの無神経な言葉に怒りを覚え、叔母を拒否する気持ち